

# ソーシャル・キャピタル形成とまちづくり意識の関連\*

## Does the Social Capital Support “New Public” Movement ?\*

谷口守\*\*・松中亮治\*\*\*・芝池綾\*\*\*\*

By Mamoru TANIGUCHI\*\*・Ryoji MATSUNAKA\*\*\*・Aya SHIBAIKE\*\*\*\*

### 1. はじめに

#### (1) 研究の背景と目的

国土計画から身近なまちづくりに至るまで、皮相的な住民参加ではなく、自発的で実質的な問題解決につながるような住民参画が以前よりも希求されている。わが国では新たな国土形成計画の中で、「国民的経営」、や「新たな公」としてそれらの参画行動は総称されるようになった<sup>1)</sup>。また、このような動きはわが国に限ったことではなく、EU<sup>2)</sup>や米国<sup>3)</sup>においても時を同じくして同様の動きが見られることは誠に興味深い。

このような参画行為には当然のこととして、国土計画やまちづくりに対する認識や問題意識が伴っていることが望まれる。その両者の間に関連性が存在すれば、参画を通じて問題意識が高まり、また問題意識が形成されれば参画が促進されるという好循環を期待できよう。ただ、その関連性について今まで実証的な見地から検証された例はない。

以上のような問題意識から、本論文では地域における住民のささやかな参画行為（後述する「ソーシャル・キャピタル」形成）の有無と、具体的なまちづくり施策に対する問題意識（重要度評価）の関連を定量的に分析することで、この課題に応えることとする。

#### (2) ソーシャル・キャピタルに関する既存研究

地域における参画行動は、近年ソーシャル・キャピタルという観点から幅広く検討が加えられており、2008年には計画学研究委員会によってシンポジウムも予定されている<sup>4)</sup>。その定義は、社会や地域に対する信頼関係と住民活動・参加を一種の地域資本として捉えたもので、Putnamによるイタリアの南北格差に関する研究「哲学

\*キーワード：意識調査分析、市民参加、地域計画、  
ソーシャル・キャピタル

\*\*正員、工博、岡山大学大学院 環境学研究科

(岡山市津島中3-1-1 Tel.Fax.086-251-8850)

\*\*\*正員、博（工）、京都大学大学院工学研究科

(京都市西京区京都大学桂Cクラスター Tel.075-383-3225)

\*\*\*\*学生員、岡山大学大学院 環境学研究科

する民主主義」<sup>5)</sup>以来関心を集めている。わが国では内閣府による調査<sup>6)</sup>が実施されて以降、計画分野の研究者の着目は早く、都市基盤整備でのコンフリクト予防・回避におけるソーシャル・キャピタルの蓄積の重要性が柴田ら<sup>7)</sup>によって指摘されているほか、過疎地域に着目して、長谷川ら<sup>8)</sup>、Itoら<sup>9)</sup>が地域再生のキー概念としてその概念を適用している。ちなみに、2007年には北見市でソーシャル・キャピタル概念を過疎地再生へ活かすための国際会議が開催され、知識面に着目したUeda<sup>10)</sup>による数理的モデルの提案など、幅広い検討がなされている。また、横松<sup>11)</sup>や渥美<sup>12)</sup>は災害復旧におけるソーシャル・キャピタルの役割を示唆している。

なお、ソーシャル・キャピタルという用語そのものは使用されていないが、地域愛着という観点から鈴木ら<sup>13)</sup>、引地ら<sup>14)</sup>の研究は、実質的に関連が深いといえる。

本論文では意識調査を通じてソーシャル・キャピタルに関する定量的検討を行うことから、表1に現在までに代理指標として実際に計測が試みられた諸例を整理しておく。

表1 ソーシャル・キャピタル（SC）の代理指標

年代	著者	SCの代理指標
1993 2000	Putnam <sup>5),15)</sup>	国民投票への参加度、新聞購読率、結社数の指標に基づく「市民共同体」合成指数 市民・政治活動への参加など14からなる合成指標
1995	Fukuyama <sup>16)</sup>	犯罪発生率、離婚率、出生率などから社会の機能不全を測定し、SCの欠如を測定
1998	世界銀行 <sup>17)</sup>	SOCAT: 家庭、コミュニティ、組織の3つのレベルで所属組織数や信頼に関して調査。アンケートのみならず、詳細に把握するためにインタビューも実施。
2002	Glaeser <sup>18)</sup>	所属団体数
2002 2005	内閣府 <sup>6),19)</sup>	近所づきあいの程度、友人・親戚づきあいの程度、趣味などへの参加状況、あるいは地域住民への信頼度、ボランティア・地縁活動への参加状況、募金額などの統合指数
2006	長谷川ら <sup>8)</sup>	住民アンケートに基づく地区のコミュニティ活動の状況
2007	川崎ら <sup>20)</sup>	地域への信頼や団結、協調などの意識やネットワークを示す数値などの23項目

#### (3) 研究の内容

本論文では「一般的な近所づきあい」や「庭や周囲の緑の手入れ」などといった、住民のささやかな参画行動をソーシャル・キャピタルの代理指標と考える。なお、

先行研究<sup>21)</sup>では、これら参画行動の実績には居住年数や年齢が大きく影響するものの、参画に対する将来的な意思については地域に対する誇りや信頼の程度が大きく影響することを既に明らかにしている。

本論文では「地域社会（コミュニティ）がうまく機能していくような、人間関係や互いの信頼に基づいた水平なネットワークのつながりのこと」をソーシャル・キャピタルと定義し、先述のように、住民の参画行動の程度の自己評価をアンケートから把握し、ソーシャル・キャピタル形成の代理指標と考える。また、ソーシャル・キャピタル形成度合いの高い人ではまちづくりに対する意識も活性化されまちづくり志向がより強くなる、という仮説を検証するために、居住者個人のソーシャル・キャピタル形成の程度と、具体的なまちづくり施策に対する問題意識（重要度評価）の関連を定量的に分析する。なお、本研究におけるソーシャル・キャピタルとは上記したように従来のソーシャル・キャピタル研究で一般的に定義されているものと同じく、地域に対する意識や参加度を指している。これに対し、まちづくり施策の重要度評価は今までソーシャル・キャピタル研究の流れの中で取り上げられたことはない。このため、本研究では両者を明確に異なるものとして扱い、その関連性について検討を行うが、両者の関連性が深い場合はソーシャル・キャピタルの定義自体を「まちづくり」意識をも含めて拡張することが妥当となるかもわからない。

なお、ここで得られた結果の普遍性を吟味する上で重要度評価に対して地区特性が及ぼす影響についてもあわせて検討を実施する。具体的には性格の異なる多様な地区を内在する倉敷市に居住する1万人の住民(ランダムサンプリング)を対象に、7種類のソーシャル・キャピタル指標、32種類のまちづくりに関する取り組み重要度評価について、意識調査を実施することを通じて分析を行った。

## 2. 調査の概要

### （1）分析対象都市

倉敷市は岡山県南部に位置し、人口478,198人（平成20年1月末現在、住民基本台帳）を有する中核都市である。その中には、倉敷市の中枢部でJR倉敷駅を有する倉敷地区、瀬戸大橋の起点であり繊維のまち児島地区、工場地帯である水島地区、漁港のまちであり、近年開発が進んでいる玉島地区、平成15年に合併した真備地区、船穂地区など、全部で図1に示す8地区が存在する。

特に中心地区の倉敷地区には町家や白壁の土蔵が立ち並ぶ景観保存地区である「倉敷美観地区」があり、観光地となっている。また、真備地区、船穂地区はモモやブドウなどの果樹や花の栽培を中心とした農業地域であり、

農村型のコミュニティが色濃く残った地区である。

### （2）調査内容

実施した意識調査の概要を表2に示す。調査では、5つのテーマに沿った32のまちづくり施策への「現状の満足度」と「今後の重要度」を5段階で尋ねている。表3にアンケートで尋ねた各まちづくり施策の内容を示す。これらは現在行われている数多くのまちづくり施策の中でも、調査主体である倉敷市と議論を重ね、倉敷市にとってより優先度の高いと考え取り上げられた32項目である。具体的には、下水道や廃棄物処理、バリアフリーなど生活に密着した施策から、景観に関した施策、また観光客誘致といった交流施策のほか、まちづくり学習や市民協働などまちづくりに関連した幅広い分野に関する施策が含まれている。なお、回答者が政策の方向性について理解しやすいよう、設問の中には他の設問と内容の重複が生じない範囲で複数の施策を併記したものも含まれている。それらの設問については、回答結果については軽度のダブルバーレル問題が含まれる点については注意が必要である。

また、ソーシャル・キャピタルの代理指標として、「一般的な近所づきあい」、「近隣の清掃活動」、「庭や周囲の緑の手入れ」、「まちづくり活動への参加」という性格や取り組みやすさなどが異なる4つの参画活動について、その参画度合いを3段階で尋ねている。そして、「倉敷市の歴史・伝統・文化に対する誇り」や「倉敷市行政への信頼感」、「倉敷の市民への信頼感」についてもソーシャル・キャピタルを構成する重要な要素と考え、3段階で尋ね、これをソーシャル・キャピタルの中でも意識に関する代理指標としている。

### （3）基礎集計結果

本研究では、先述の通りソーシャル・キャピタル代理指標の中でも行動を表す指標として地域に関わる4つの活動への参画状況を、意識を表現する指標として誇りや信頼などを用いる。図2にソーシャル・キャピタル形成（行動）の現状を、図3に「誇り」や「信頼」などソーシャル・キャピタル形成（意識）についての現状を示す。

行動の面では「一般的な近所づきあい」や「近隣の清掃活動」といった容易に取り組むことのできるものと比較して、「まちづくり活動への参加」のように取り組み内容がやや高度と思われるものになるにつれ、参加度が低くなる傾向が明らかとなった。しかしながら、「一般的な近所づきあい」などに関しても全く行っていないという市民も少人数ながら存在していた。意識の面では、地域の伝統や歴史に対して「誇り」を感じている人は比較的多く、「誇り」を全く感じないと答えた人は全体の1割程度であった。行政や市民に対する「信頼」では、

少しは信頼していると回答した者の割合が最も高く、行政に対して信頼できないと回答した市民は2割以上おり、ばらつきがあるといえる。

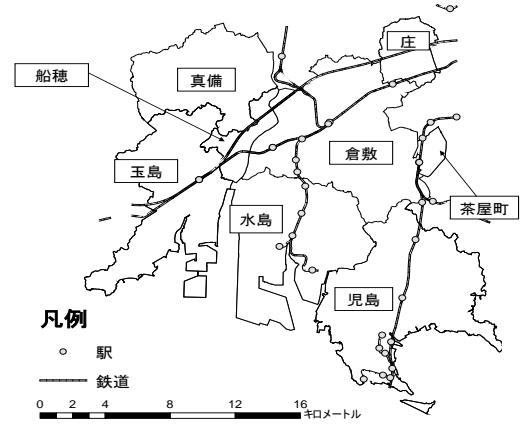


図1 倉敷市を構成する8地区

表2 倉敷市民意識アンケート調査の概要

調査対象者	18歳以上の男女 1万人
調査方法	無作為抽出による郵送方式
調査期間	2006年9月
調査内容	I.個人属性
	II.まちづくり施策について(全32項目)
	i)重要度
	ii)満足度
	III.ソーシャル・キャピタル指標(行動)
	i)一般的な近所づきあい
	ii)近隣の清掃活動
調査内容	iii)庭や周囲の緑の手入れ
	iv)まちづくり活動への参加
	IV.ソーシャル・キャピタル指標(意識)
調査内容	i)伝統・歴史・文化に対する誇り
	ii)行政に対する信頼感
	iii)一般市民に対する信頼感
サンプル数	3384(回収率:33.84%)
実施主体	倉敷市都市計画課

表3 各まちづくり施策の内容

テーマ	番号	各まちづくり施策の内容
A 生活に関する施策	A-1	生活排水処理施設や下水道の整備
	A-2	ゴミや廃棄物の処理体制の充実
	A-3	安価な公営住宅の整備・充実
	A-4	木造密集市街地の防災化
	A-5	駅等での人にやさしい環境づくり(ユニバーサルデザイン)
	A-6	狭い生活道路の拡幅
B 景観に関する施策	B-1	美観地区を中心とする都市景観形成
	B-2	各地域の駅前など顔となる地区の景観形成
	B-3	歴史的な建造物や街並みの景観の向上
	B-4	良質な景観整備・美化の推進
	B-5	花や緑を活かした街並みの景観の向上
	B-6	案内板や標識の意匠の美化・統一など
	B-7	看板・張り紙などの規制
C 交流に関する施策	C-1	歴史文化を学び親しむ散策路などの整備
	C-2	海・港・河川などの水辺の親水空間
	C-3	地域の特色ある交流イベントの促進
	C-4	生活空間における小公園・広場の整備・充実
	C-5	水・緑・文化を活かした、観光客の誘致
D 都市整備に関する施策	D-1	都市整備コストの抑制など環境にやさしいまちづくり
	D-2	商店街活性化など、賑わい空間の整備
	D-3	公共交通の便をよくし、交通環境を充実
	D-4	周辺都市と連絡する広域的な幹線道路の整備
	D-5	駅前広場や接続道路の整備など
	D-6	倉敷駅鉄道高架化による南北交通と都市空間の一体化
	D-7	駅前の駐輪・駐車場の整備
E 市民協働に関する施策	E-1	市政やまちづくりに関する情報提供・公開の推進
	E-2	まちづくりの相談窓口などの庁内体制の充実
	E-3	まちづくり専門家等による支援の充実
	E-4	まちづくりに関する学習機会の充実
	E-5	まちづくりへの関心などを高める交流イベント開催
	E-6	ボランティアやNGO等のまちづくり活動の支援強化
	E-7	優良なまちづくり活動の奨励・表彰・支援の仕組み強化

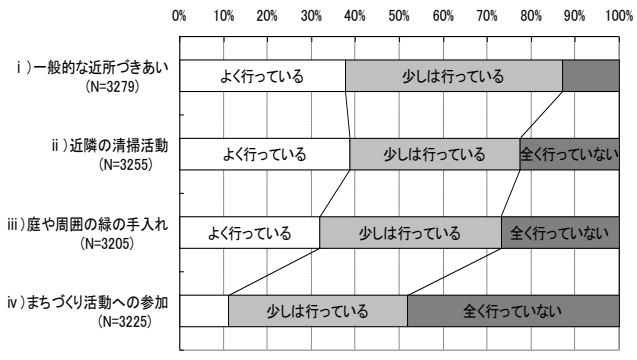


図2 ソーシャル・キャピタル指標(行動)の現状

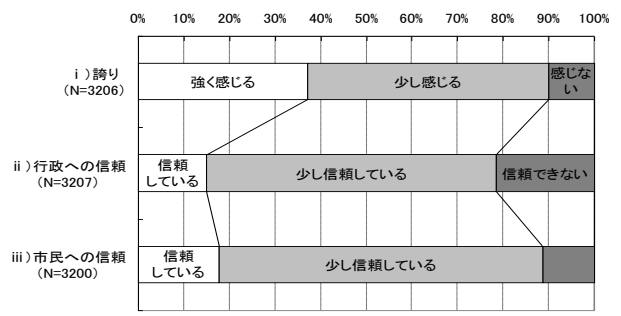


図3 ソーシャル・キャピタル指標(意識)の現状

3. ソーシャル・キャピタルとまちづくり意識の関係

(1) 帰無仮説

各まちづくり施策の今後の重要度と、ソーシャル・キャピタル形成実態との関係の有無を明らかにするために、独立性の検定を行った。このとき帰無仮説は以下に示すものである。

仮説：各まちづくり施策に対する重要度評価とソーシャル・キャピタル指標(行動・意識)は互いに独立(すなわち、無関係)である。

(2) 分析結果と考察

この仮説に対する検定結果を表4に示す。表中の数値はp値( $\chi^2$ 分布の上側累積確率)であり、例えば0.01のとき、仮説を棄却した場合にそれが誤りである確率が1%であることを意味する。

表4の結果から、ソーシャル・キャピタル形成とまちづくり施策に対する重要度の評価は全体的に見れば独立のものは少なく、関係性が強いものがほとんどであることが明らかとなった。つまり、ソーシャル・キャピタル形成度の高い人では、まちづくり意識も相対的に強い傾向にあり、「一般的な近所づきあい」などといった特別な技術を必要としない取り組みでも、まちづくり意識の喚起に強い関連がある。(なお、研究の背景でも記述したとおり、まちづくり意識が形成された者が参画行動に

表4 ソーシャル・キャピタルとまちづくり施策重要度に関する独立性の検定結果

各まちづくり施策の内容		Ⅲ ソーシャル・キャピタル指標(行動)				Ⅳ. ソーシャル・キャピタル指標(意識)		
		一般的な 近所づきあい	近隣の 清掃活動	庭や周囲の 緑の手入れ	まちづくり活動 への参加	誇り	行政への信頼	市民への信頼
A 生活に 関する 施策	A-1 生活排水処理施設や下水道の整備	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	A-2 ゴミや廃棄物の処理体制の充実	0.023 *	0.018 *	0.002 **	0.119 **	0.000 **	0.000 **	0.001 **
	A-3 安価な公営住宅の整備・充実	0.038 *	0.079 **	0.000 **	0.204 **	0.000 **	0.000 **	0.003 **
	A-4 木造密集市街地の防災化	0.001 **	0.002 **	0.000 **	0.040 *	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	A-5 駅等での人にやさしい環境づくり(ユニバーサルデザイン)	0.141 **	0.000 **	0.000 **	0.069 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	A-6 狭い生活道路の拡幅	0.006 **	0.026 *	0.000 **	0.106 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
B 景観に 関する 施策	B-1 美観地区を中心とする都市景観形成	0.012 *	0.008 **	0.003 **	0.216 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	B-2 各地域の駅前など顔となる地区の景観形成	0.021 *	0.048 **	0.001 **	0.014 *	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	B-3 歴史的な建造物や街並みの景観の向上	0.332 **	0.102 **	0.028 *	0.007 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	B-4 良質な景観整備・美化の推進	0.504 **	0.311 **	0.047 *	0.155 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	B-5 花や緑を活かした街並みの景観の向上	0.141 **	0.131 **	0.025 *	0.003 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	B-6 案内板や標識の意匠の美化・統一など	0.003 **	0.001 **	0.000 **	0.003 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	B-7 看板・張り紙などの規制	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
C 交流に 関する 施策	C-1 歴史文化を学び親しむ散策路などの整備	0.003 **	0.002 **	0.000 **	0.008 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	C-2 海・港・河川などの水辺の親水空間	0.050 **	0.062 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	C-3 地域の特色ある交流イベントの促進	0.130 **	0.059 **	0.021 *	0.095 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	C-4 生活空間における小公園・広場の整備・充実	0.240 **	0.180 **	0.108 **	0.003 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	C-5 水・緑・文化を活かした 観光客の誘致	0.130 **	0.001 **	0.253 **	0.355 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
D 都市整備 に関する 施策	D-1 都市整備コストの抑制など環境にやさしいまちづくり	0.490 **	0.003 **	0.000 **	0.010 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	D-2 商店街活性化など、賑わい空間の整備	0.317 **	0.005 **	0.006 **	0.383 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	D-3 公共交通の便をよくし、交通環境を充実	0.044 *	0.003 **	0.010 **	0.734 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	D-4 周辺都市と連絡する広域的な幹線道路の整備	0.048 *	0.016 *	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	D-5 駅前広場や接続道路の整備など	0.057 **	0.002 **	0.002 **	0.098 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	D-6 倉敷駅鉄道高架化による南北交通と都市空間の一体化	0.000 **	0.044 *	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	D-7 駅前の駐輪・駐車場の整備	0.043 *	0.005 **	0.025 *	0.064 **	0.000 **	0.000 **	0.002 **
E 市民協働 に関する 施策	E-1 市政やまちづくりに関する情報提供・公開の推進	0.031 *	0.015 *	0.000 **	0.016 *	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	E-2 まちづくりの相談窓口などの庁内体制の充実	0.002 **	0.018 *	0.001 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	E-3 まちづくり専門家等による支援の充実	0.002 **	0.000 **	0.001 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	E-4 まちづくりに関する学習機会の充実	0.079 **	0.004 **	0.003 **	0.001 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	E-5 まちづくりへの関心などを高める交流イベント開催	0.001 **	0.019 *	0.000 **	0.010 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	E-6 ボランティアやNGO等のまちづくり活動の支援強化	0.001 **	0.043 *	0.000 **	0.032 *	0.000 **	0.000 **	0.000 **
	E-7 優良なまちづくり活動の奨励・表彰・支援の仕組み強化	0.039 **	0.013 *	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **	0.000 **

凡例

\*\* SC形成度が高いほど重要度意識が高い傾向(独立性が1%有意で棄却され、関係が強い)  
 \* SC形成度が高いほど重要度意識が高い傾向(独立性が5%有意で棄却され、関係が弱い)  
 SC形成度が高いほどまちづくり重要度が低い傾向(相関係数が負の値をとる)

参入するという逆の解釈を排除するものではない。)

また、行動指標と「誇り」や「信頼」などの意識指標を比較すると、意識指標の方がより強い関係性を持つこともこの表より明らかとなった。行動が実現できるのは時間制約など様々な制約をクリアして初めて可能となるため、行動が介在しない意識どうし(「ソーシャル・キャピタル指標(意識)」と「まちづくり施策に対する重要度評価意識」)の間の方が強い関係を見せるというのは自然な結果といえよう。

この表からはこのような全体的な傾向以外に、実に多くの興味ある新しい知見を読み取ることができる。以下にその代表的なものを解説する。

- 1) 全体的には関連性が見られる中で、明確な関連性が存在しない部分も散見される。例えば、行動指標「一般的な近所づきあい」と、C「交流に関する施策」群との交わり部分は、ほとんど関連性が見られない。どちらも人間の交わりに関わる事項であるため、一見関連が強くて然るべきとも思われるが、近所づきあいはローカルな交わりであり、交流施策は地域イベントや観光客誘致などの広域的な交わりで、その異質性に注意が必要であることが示されたといえる。
- 2) 行動指標の中では「庭や周囲の緑の手入れ」が、特にまちづくり意識全体と強い関連を持つ傾向にある。その中でも、B「景観に関する施策」や、D「都市整備に関する施策」とは全項目にわたって、その関係性

が示された。

- 3) 一方で、このB「景観に関する施策」やD「都市整備に関する施策」により直接関係すると思われる行動指標「まちづくり活動への参加」は、むしろ関係性が明確に示されていない点は興味深い。B-1「都市景観形成」やD-2「商店街活性化」などが「まちづくり活動への参加」と無関係なのはむしろ奇異にも見えるが、詳細な検討の結果、これは後に詳述するようによりローカルな地区特性が影響していることが明らかとなった。
- 4) また、表4の中には有意な負の関係(ソーシャル・キャピタル指標が低い住民の方が、むしろ重要性意識が高い)を示す組み合わせも少数であるが存在する(表中の網掛けで表現)。例えば、A-3「安価な公営住宅の整備・充実」に対しては「庭や周囲の緑の手入れ」に関する活動を行っている住民がむしろその重要性を認めていない。これは、「庭や周囲の緑の手入れ」という活動の特性上、持ち家に住んで庭を持つ住民が取り組んでいる傾向があり、公営住宅という居住形態そのものを彼らが重要視していない可能性が高い。
- 5) A～Eのまちづくり施策群の中で、E「市民協働に関する施策」群ではE-4を除く全ての取り組みに関してどの行動指標、意識指標とも非常に高い関係性を示しており、全て正の関係を有している。この結果から、行動・意識のいずれにおいてもソーシャル・キャ

ピタル形成度の高い市民はまちづくりへの参画に前向きで、関連施策の充実を望む傾向が明らかとなった。

#### 4. 居住地区によるまちづくり施策重要度の違い

##### (1) 分析内容

先に考察したとおり、ソーシャル・キャピタル形成の水準に応じ、まちづくり施策重要度の評価が異なることは傾向として明らかとなったが、居住者が住む場所の地区特性が両者の関係性に部分的に影響を及ぼしている可能性も考えられた。対象とした倉敷市内は最初に述べたとおり大きく性格の異なる8地区から構成されており、このような地区特性の影響を検討するには最適といえる。本章では実際に居住地区によるまちづくり施策重要度の違いを明らかにすることで、地区特性が及ぼす影響の程度を明らかにする。

具体的には8つの地区別に、重要度評価は最も評価が高い「重要である」という回答を5点、最も評価が低い「重要でない」を1点として5段階評価を行い、各地区の平均を算出した。結果としてわかりやすい部分を抜粋（項目について全地区の平均との差が0.1より大きい項目と差が非常に小さい3項目、居住地区について0.1よりも大きく差があり特性が明確なもの）したものを表5に示す。また、施策ごとに居住地区による差異が有意なものであるかどうか検定を行い、その結果もあわせて示した。

##### (2) 分析結果と考察

表5から、A-2、3、4、B-4等のように居住地区による差異がほとんど無い取り組みもある一方で、A-1やB-2、D-2、3、5、6のように居住地区によってその重要度評価に差が生じる取り組みもいくつかあることがわかった。中でもA-1、B-2、D-3、5、6は検定結果より、地区間で統計的に有意な差があった。B-1、

2は美観地区や景観に関する取り組みであり、美観地区を有している倉敷地区で非常に重要度が高くなっている。商店街活性化に関わるD-2も、倉敷地区や児島地区など実際に一定規模以上の商店街を有している地区で重要度が高い値が示された。ちなみに、公共交通整備に関するD-3は、鉄道駅が無い船穂地区で最も重要度が低くなっていた。一方、駅前広場に関する施策D-5については、市の中心駅であるJR倉敷駅のある倉敷地区で重要度が高いことが示された。

以上の結果から、住民によるまちづくり施策のうち一部の重要度評価は、居住者のソーシャル・キャピタルの形成水準に加え、その地区に関連する対象事象が存在するかどうかによって一定の影響を受けていることを、定量的に明らかにすることができた。

#### 5. 居住地区によるソーシャル・キャピタル形成の違い

##### (1) 分析方法

以上のように、居住地区特性の違いがまちづくり施策の重要度評価に一定の影響を及ぼす場合があるということを確認した。さらに残された疑問として、このような居住地区特性の違い自体が、ソーシャル・キャピタル形成水準にも影響を及ぼしているかどうかについても確認しておくことが望ましいといえる。

本章の分析では、ソーシャル・キャピタルに関する行動指標については実施・参加度の最も高いものを3点、最も低いものを1点とし、意識指標についても最も誇り・信頼度の高いものを3点、最も低いものを1点として3段階評価を行い、それぞれ平均値を算出した。居住地区別にその結果をまとめたものが表6である。

##### (2) 分析結果と考察

ソーシャル・キャピタル指標（行動）に関しては農村的なコミュニティに残っている真備地区・船穂地区にお

表5 地区別まちづくり施策の重要度

テーマ	番号	各まちづくり施策の内容	倉敷地区 (970)	児島地区 (341)	船穂地区 (50)	真備地区 (152)	全8地区 平均
A 生活関連 施策	A-1	生活排水処理施設や下水道の整備*	4.24	4.22	4.18	4.44 ●	4.28
	A-2	ゴミや廃棄物の処理体制の充実	4.32	4.34	4.24	4.30	4.31
	A-3	安価な公営住宅の整備・充実	3.25	3.27	3.24	3.21	3.27
	A-4	木造密集市街地の防災化	3.88	3.99	3.82	3.93	3.92
	A-5	ユニバーサルデザイン等	4.16	4.03	3.98 ●	4.14	4.13
B 景観関連 施策	B-1	美観地区を中心とする都市景観形成	3.86 ○	3.77	3.68	3.82 ○	3.75
	B-2	各地域の駅前など顔となる地区の景観形成**	4.08 ○	3.89	3.82	3.93	3.92
	B-4	良質な景観整備・美化の推進	3.80	3.73	3.74	3.77	3.77
D 都市整備 関連施策	D-2	商店街活性化など、賑わい空間の整備	4.07	3.94	3.80 ●	3.89	3.94
	D-3	公共交通の便をよくし、交通環境を充実*	4.13	4.19	3.98 ●	4.25	4.19
	D-5	駅前広場や接続道路の整備など**	4.12 ○	3.88	4.06	3.97	3.98
	D-6	倉敷駅鉄道高架化による南北交通と都市空間の一体化**	3.98	3.77 ●	3.84	4.12 ○	3.91

凡例	○	全地区の平均との差>0.1
	●	全地区の平均との差>-0.1
	*	5%有意で居住地区による違いが認められる
	**	1%有意で居住地区による違いが認められる

いて平均値が高くなっており、「まちづくり活動への参加」指標で特にその傾向は顕著である。市全体を分析対象とした最初の分析結果で、「まちづくり活動への参加」とB「景観に関する施策」、D「都市整備に関する施策」の間に明確な関係が見られなかった理由はここにもある。このことから、倉敷市における真備地区・船穂地区のような農村的な地域において参加活動が活発であるという回答が得られたことから、本分析で捉えたソーシャル・キャピタルとしての「まちづくり活動」とは、むしろ一般の住民にとっては農村部における昔からの住民同士のつながりに基づいた「むらづくり」活動であり、このような「むらづくり」活動を多くの住民は「まちづくり活動」と考えていることがわかった。なお、意識指標に関しては行動指標で見られたような農村部での参画の高さといった共通傾向は見られない。

「誇り」については、美観地区を有し、県外においてもその認知度が高い都心の倉敷地区が他の地区に比較して非常に高くなっている。まちづくりが住む人の誇りを高めることの証左といえよう。一方、鉄道駅が地区内になく、最近倉敷市に合併したばかりの船穂地区は、いずれの意識指標においても地区間で最低値となっているのは、この地区が行動指標すべてにおいて高い値を示していただけに対照的である。この分析だけから結果を断定するのは好ましくないが、シンボルとなる取り組みの存在や求心性のある都市構造などが、そこに住む人のソーシャル・キャピタルを意識面から醸成し、まちづくり意識を更に高める流れにあることを読み取ることは可能であろう。

## 6. おわりに

本研究では、都心から農村まで多様な8地区をカバーする倉敷市に居住する1万人へ意識調査を敢行し、行動・意識の両面(7指標)に渡るソーシャル・キャピタル

形成とまちづくり意識(32項目の重要度評価)の関連をはじめて定量的に明らかにした。分析の結果、得られた成果は以下のとおりである。

- 1) ソーシャル・キャピタル形成(行動・意識指標)とまちづくり意識の関連は全般に非常に高く、特に意識指標とまちづくり意識の間には強い関係が見られた。本論文の最初に述べた、参画と問題意識が連動した好循環の形成可能性は、実証的な観点から多くの施策項目においてほぼ検証されたといえる。
- 2) 一方、行動指標の中には特定のまちづくり施策に対する意識と必ずしも連動しない部分もあり、居住者の興味の対象や居住者の住む地区の特性がそれに影響していることが新たに明らかとなった。
- 3) また、地区別の分析より、景観形成や交通拠点の存在などの取り組みが、居住者のソーシャル・キャピタル形成を意識面より下支えしている可能性が高いことを定量的に明らかにした。

なお、論文中でも述べたが、本研究はあくまで変数間の相関関係を最初の分析対象として選んだものであり、この結果だけから変数間の因果関係までを明確にできたとは考えていない。また、本論文で述べた好循環関係は、特定の状況下においては「取り組む人ばかりが更に取り組み、やらない人は何もやらない」という期待とは異なる事態を一部に含む可能性も残されており、「国民的経営」や「新たな公」育成のためのソーシャル・キャピタル形成政策を展開する場合には、これらの諸点に対する注意も必要である。

最後となったが、本論文のアンケート実施においては、倉敷市都市計画課の協力を得た。また、発表会の場において東京工業大学・藤井聡教授、熊本大学・田中尚人准教授より貴重なコメントをいただいた。記して謝意を表す。

表6 ソーシャル・キャピタル指標の居住地区別平均点

SC指標 居住地区	ソーシャル・キャピタル指標(行動)				ソーシャル・キャピタル指標(意識)		
	一般的な 近所づきあい**	近隣の 清掃活動**	庭や周囲の 緑の手入れ*	まちづくり活動 への参加**	誇り**	行政への信頼**	市民への信頼**
倉敷地区	2.17	2.08	2.01	<b>1.54</b>	2.34	1.92	2.05
水島地区	2.18	2.09	1.96	1.59	2.15	1.87	2.04
児島地区	2.28	2.23	2.10	1.68	2.20	1.97	2.07
玉島地区	2.34	2.25	2.10	1.69	2.28	1.99	2.13
庄地区	<b>2.12</b>	<b>1.96</b>	2.04	1.58	2.31	<b>2.05</b>	2.07
茶屋町地区	2.28	2.15	<b>1.88</b>	1.60	2.20	1.94	2.07
真備地区	2.36	<b>2.28</b>	<b>2.17</b>	1.76	2.25	1.93	2.07
船穂地区	<b>2.40</b>	2.11	2.08	<b>1.85</b>	<b>2.02</b>	<b>1.81</b>	<b>1.96</b>
全8地区平均	2.27	2.14	2.04	1.66	2.22	1.94	2.06
凡例	** *	5%有意で居住地区による違いが認められる 1%有意で居住地区による違いが認められる			<b>斜字</b>	最大値をとる居住地区 最小値をとる居住地区	

## 【参考文献】

- 1) 国土交通省国土計画局：国土審議会計画部会第10回  
持続可能な国土管理専門委員会資料・国土の国民的経  
営の推進に向けて，  
<http://www.mlit.go.jp/singikai/kokudosin/keikaku/jizoku/10/02.pdf>（最終閲覧日：2008年2月21日）
- 2) Peel, D. and Lloyd, G. : Civic Formation and a  
New Vocabulary for National Planning,  
International Planning Review, Vol.12, No. 4,  
pp.391-411, 2007.
- 3) Stengel, R: A Time To Serve, TIME September 10,  
2007.
- 4) 土木計画学研究委員会（リスクマネジメント研究  
小委員会）：土木計画におけるソーシャル・キャ  
ピタル，2008.5.開催予定
- 5) Putnam, R.D. : Making Democracy Work: Civic  
Traditions in Modern Italy, NJ, Princeton  
University Press, 1993.
- 6) 内閣府国民生活局市民活動促進課：ソーシャル・  
キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を  
求めて，2002. [http://www.npo-homepage.go.jp/data/report\\_9\\_1.html](http://www.npo-homepage.go.jp/data/report_9_1.html),（最終  
閲覧日：2007/06/21）
- 7) 柴田久・土井健司：都市基盤整備におけるコンフ  
リクト予防のための計画プロセスの持続的信頼  
性に関する考察，土木学会論文集D, Vol.62  
No.2, pp.213-216, 2003.
- 8) 長谷川裕信・田村亨・有村幹治：自然共生地域の  
持続的発展可能性—社会基盤の役割とソーシャ  
ル・キャピタルの育成—，土木計画学研究講演集  
Vol.33, 2006.
- 9) Ito, K.・Westlund, H・Kobayashi, K. : Social  
Capital and Development Trends in Rural Areas  
Vol.2, MARG, 2006.
- 10) Ueda, T. : Some approaches to Mathematical  
Modeling of Social Capital - Interpretation  
as Collective Learning-, The 4<sup>th</sup> Workshop on  
Social Capital and Development trends in  
Japan's and Sweden's Countryside, 2007.
- 11) 横松宗太：地域資産のリスクマネジメント・災  
害から風景を守るために，田中尚人・柴田久・編  
著：土木と景観—風景のためのデザインとマネジ  
メント—，pp115-158, 学芸出版社, 2007.
- 12) 渥美公秀：災害に強いコミュニティのために，  
季刊誌 CEL Vol. 73, 大阪ガス エネルギー・文  
化研究所, 2005.
- 13) 鈴木春菜・藤井聡：利用店舗への愛着が地域愛着へ  
及ぼす影響とその規定因に関する研究，都市計画論文  
集, No.42-3, pp.13-18, 2007.
- 14) 引地博之・青木俊明・大淵憲一：地域に対する愛着  
の形成過程の検討，土木計画学研究・講演集, Vol.34,  
CD-Rom, 2006.
- 15) Putnam, R.D. : Bowling Alone: the collapse  
and revival of American community, New York,  
Simon and Schuster, 2000.
- 16) Fukuyama, F. : Trust: The Social Virtues and  
the Creation of Prosperity, New York, Free  
Press, 1955.
- 17) The World Bank: Social Capital (Measurement  
Tools), <http://go.worldbank.org/K00QFVW770>,  
（最終閲覧日2007年12月27日）
- 18) Glaeser, E. : An Economic Approach to Social  
Capital, The Economic Journal, 112, F437-F458,  
Blackwell Publishers, 2002.
- 19) 内閣府経済社会総合研究所：コミュニティ機能  
再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査  
報告書，2005.  
<http://www.esri.go.jp/jp/archive/hou/hou020/hou015.html>,（最終閲覧日：2008年2月21日）
- 20) 川崎麻美子・梶秀樹：建築協定の運営形態が地  
域のソーシャル・キャピタル醸成に与える影響の  
分析，財団法人日本不動産学会論文集一般論文，  
pp197-204, 2007.
- 21) 芝池綾・谷口守・松中亮治：意識調査に基づく  
ソーシャル・キャピタル形成の構造分析—地域へ  
の「誇り」や「信頼」がおよぼす影響—，日本都  
市計画学会論文集, No.42-3, pp343-348, 2007.

谷口守\*\*・松中亮治\*\*\*・芝池綾\*\*\*\*

近年、コミュニティ機能の再生においてその重要性が指摘されているソーシャル・キャピタルに関して、住民のまちづくりに対する重要度意識との関連を明らかにした。これにより、ソーシャル・キャピタル形成度合いが高い人では、まちづくり施策に対する重要度も高いという一般的な関係があることがわかった。また、参加活動よりも地域に対する誇りや信頼度がまちづくり重要度意識との関係が深く、参加活動よりも地域をどうとらえているかということがより強くまちづくりに対する意識と結びついていることを明らかにした。

---

## Does the Social Capital Support “New Public” Movement ?\*

By Mamoru TANIGUCHI\*\*・Ryoji MATSUNAKA\*\*\*・Aya SHIBAIKE\*\*\*\*

Recently, social capital is pointed out for its importance in reproduction of the community function. Through this research, the person with a high social capital formation degree has understood there is a general relation with a high importance degree to the city planning measure, too. Moreover, it was clarified to relate to the idea to the city planning from the participation activity more strongly the boast and reliability to the region whether were deep the relation to the importance degree of city planning consideration, and very caught the region from the participation activity.

---